

■金子光晴 詩人。世界放浪で独自の境地を開き、抵抗と反骨の精神を貫き、高齢になって、その生き方が注目された。

かねこみつはる

日清戦争終・1895＝ 愛知県の現在の津島市に生れた。父大鹿和吉は酒商だが、興業や鉱山に手を出していた。

八幡製鉄始・1897＝ 2歳：父が事業に失敗。光晴の稚児ぶりが清水組の名古屋主任の目にとり、金子荘太郎・須美の養子となる。

田中正造直訴1901＝ 6歳：荘太郎の転勤で、京都に移り、教科書疑獄・1902＝ 7歳：京都市立の尋常小学校に入学。

日露戦争始・1904＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝10歳：

満鉄発足・・・1906＝11歳：卒業。荘太郎が東京転勤となり、泰明高等小学校に入学。浮世絵師小林清親に日本画を学ぶ(放浪旅行中には、絵で糊口をしのいだこともある)。

韓国反日暴動1907＝12歳：友人とアメリカへ脱出しようと、横須賀、横浜を転々とし、新聞ダネとなる。

アヲボト創刊・1908＝13歳：暁星中学校に入学。

古本屋などに入り浸り、成績悪化、留年。

大逆事件判決1911＝16歳：小説家になろうと決意。学友と回覧雑誌を発行。

明治天皇没・1912＝17歳：

大正政変・・・1913＝18歳：荘太郎と毎晩のように寄席に通う。

第一次大戦始1914＝19歳：卒業して、早稲田大学高等予科に入学するが、周囲に反発して、

21ヶ条要求・1915＝20歳：退学、東京美術学校に入学するも退学、慶応義塾大学予科中、肺炎カタルで病臥し、詩作を始めた。

民本主義・・・1916＝21歳：退学。以後、文学人と盛んに交流。養父荘太郎が死去、遺産20万円を義母と折半したが、

短期間に散財、

ベルリン条約・1919＝24歳：残った金で、処女詩集「赤土の家」を出し、ヨーロッパへ留学に出る。

大暴落・・・1920＝25歳：ベルギーのブリュッセル郊外に滞在して、初めて向日的な日々を送り、西欧文化への目を開かれ、

原敬首相暗殺1921＝26歳：帰国。

水平社結成・1922＝27歳：

関東大震災・1923＝28歳：その所産の高踏的・耽美的な詩集「こがね虫」で詩人の名が確立したが、大震災により水泡に帰した。

護憲三派圧勝1924＝29歳：女子高等師範の学生で作家志望の森三千代と結婚したが、定職につかず生活は困窮する。

治安維持法・1925＝30歳：長男誕生。

日本時代始・1926＝31歳：夫妻で上海旅行。「水の流浪」刊。

共産党事件・1928＝33歳：上海旅行の留守中、三千代が土方定一と恋愛し、面目を失ったため、三千代と日本を脱出、東南アジアからヨーロッパまで、5年間放浪。

満州事変・・・1931＝36歳：

五一五事件・1932＝37歳：帰国。実兄妹の設立した会社の世話になる。

この苦しい旅によって、東西両文明を客体視できるようになり、詩人として大きく飛躍。

芥川直木賞始1935＝40歳：「芸文」に「鮫」が掲載されて注目され、「燈台」は称賛され、「蚊」は当局の注意を受けた。

日中戦争始・1937＝42歳：「鮫」刊行。夫妻で北支を視察。創作意欲が旺盛。

健保+総動員 1938＝43歳：帰国。終生の住居となった吉祥寺の家に移る。この頃、喘息で苦しむ。

大政翼賛会・1940＝45歳：「マレー蘭印紀行」刊。

日米開戦・・・1941＝46歳：

・・・1942＝47歳：「中央公論」に「海」を発表後、ジャーナリズムから遠ざかり、反戦の詩を書き続け、

また、戦火から原稿を守るため、ノートの筆写をさせる。

年金+総武装 1944＝49歳：なんとか召集を逃れ、山中湖畔に疎開。

敗戦・・・1945＝50歳：終戦の報を聞き、レコードをかけて踊りまわる。

新憲法公布・1946＝51歳：吉祥寺の家に戻る。

新憲法施行・1947＝52歳：世話になっていた会社が営業不振となり、定収を失う。

極東裁判決・1948＝53歳：詩人志望の大川内令子が訪れ、恋愛。*「落下傘」等は、抵抗詩集として最も高い位置をしめる。「蛾」、

三大事件・・・1949＝54歳：三千代がリ्यूマチスになり、以後闘病生活。再刊「コスモス」同人。「女たちのエレジー」「鬼の児の唄」刊行。旺盛な創作、翻訳をし、以後、編集委員、選者になることが多くなる。

独立回復・・・1951＝56歳：

メーデー事件・1952＝57歳：*戦後創作の「人間の悲劇」を刊行し、読売文学賞。

なべ底不況・1957＝62歳：初めて生地を訪れ、自伝「詩人」を刊行。

インスタマン・1958＝63歳：

美智子妃・・・1959＝64歳：実弟で「野蛮人」「谷中村事件」の作家大鹿卓が死去。

安保闘争・・・1960＝65歳：「金子光晴全集」刊行開始。

TV宇宙中継始1963＝68歳：実妹死去。長男結婚。

東京オリンピック 1964＝69歳：初孫誕生。若い詩人たちと詩誌「あいなめ」を刊行。

大学紛争始・1965＝70歳：令子と三千代とで入籍・離婚を繰返したが、三千代と三度目の婚姻届を出し、森姓とさせられた。歴程賞の「IL」は、人間の実存の痛みを、詩と散文を混交した独特の文体で表出した傑作である。

美濃部都知事1967＝72歳：「若葉のうた」、「定本金子光晴全詩集」刊行。

トルジョック・・・1971＝75歳：自伝小説「どくろ杯」。*「朝日新聞」が金子光晴大きくとり上げる。「風流尸解記」が芸術選奨文部大臣賞。

石油ショック 1973＝77歳：「ねむれ巴里」ほかを発表、

*自在な語り口と、とらわれない生き方で注目され、面白い爺さんとしてマスコミの人気者になったが、

ケアンブル事件1975＝79歳：喘息による急性心不全で自宅で、没した。